

日本の展望委員会「地球環境問題分科会」(第3回)議事要旨

1. 日 時:平成 20 年 12 月 26 日(金) 10:00-12:00

2. 場 所:日本学術会議大会議室(2F)

3. 出席者:河野 長(委員長)、中島映至(幹事)、淡路剛久、佐藤 薫、佐藤文彦、高村ゆかり、安成哲三、
山本眞鳥

欠席者:植田和弘、岡田清孝、前田正史、松井孝典、山地憲治、鷲谷いづみ

4. 議 題:

- (1) 前回議事要旨(案)の確認
- (2) 分科会の委員について
- (3) 分科会の検討事項について
- (4) 今後の進め方について
- (5) その他

5. 資料:

- 資料1. 前回議事録要旨(案)
- 資料2. 委員名簿
- 資料3. 地球環境分科会検討事項(2008/12/26)

6. 議事概要

(1) 前回議事要旨を確認し、採択した。

(2) 分科会の構成について検討した。

・前回決定した委員の追加(植田和弘、佐藤文彦、高村ゆかりの各氏)については 11 月の幹事会で承認され、今回からこれらの委員にも加わっていただくことになったことが報告された。

・新たに土木工学・建築学委員会から2名の推薦があったが、適切な委員会サイズ(15名程度)を勘案して1名(村上周三氏)の参加をお願いすることにした。

(3) 各委員からの提案を資料 3 に基づいて検討した(アクションアイテムを A/I で示す)。

(a) 全体的視点

- ・アジアの問題としての環境問題の視点が重要(安成)
- ・科学的研究、技術的研究、政策の科学的研究が必要(高村、淡路)
- ・官僚に理系が少ない;2年交代で継続性がない:政治家と官僚とのコミュニケーションとそれを翻訳する人が大事(複数)
- ・学術会議の立場ではっきりした政策を示せない;両論併記ではインパクトが少ない(佐藤(文))

- ・しかし学術会議としてはそのような両論併記にならざるを得ない(中島)
- ・国際的な舞台での日本発の重要性(淡路)

(b) 地球システムと人類:人口増加・爆発、地球温暖化、自然災害、環境汚染

- ・人口増加を抑えると言ってよいのかは国際的に難しい(河野)
- ・競争を行いつつ、グローバルな環境負荷を低減化するための国際枠組みが必要;ミレニアム開発目標(中島)
- ・人権保護の観点が必要である、10年スケール(高村)
- ・地球温暖化ではポスト議定書体制が短期、30-50年スケールが長期(中島)
- ・日本の展望では10年の議論(河野)本分科会としては30-50年スケールで議論するべきであることを上部委員会に伝える(A/I)
- ・人口密集が極端自然現象の被害を助長させている面がある;自然現象予測が重要(河野)
- ・オゾンホール拡大を止めることができたのはモントリオール議定書の成功例、しかしオゾンホール現象自体は複雑

(c) 環境汚染

- ・健康被害の問題(高村)

(d) 農業・林業:農業と環境、森林破壊・生態系改変、砂漠化、日本の林業の復興

- ・海外にくらべて林業の労賃が高すぎるために、国内森林の放置、海外森林の破壊(山本)
- ・補助金によって国内需要を増やすことが有効である(山本)
- ・農業自体が環境破壊・砂漠化になっているので、持続型の技術化の推進が必要;これまでの教訓をレビューすべきである(佐藤(文))
- ・他の課題別、持続可能分科会等の議論も勘案する必要がある(A/I)
- ・地表面改変、大気汚染の観点でも見るべきである(安成)
- ・分野横断的な問題(気候、水、生態系、農業)としてとらえるべきである(安成)

(e) 生物多様性/生態系の危機:ミレニアム生態系評価、生態系保全

- ・国際取り組みの重要性
- ・森林破壊の問題の解決が難しい(山本)
- ・海洋生態系の問題(高村)

(f) 資源:鉱物資源

- ・資源としての水の捉え方が重要である。特にアジア域(安成)
- ・鉱物資源の部分は、地球環境問題の立場からどのように書くべきかを検討する必要がある

(g) 政策:環境技術、政府開発援助に関する環境的視点、地球環境研究の国際的枠組み、地球観測と実証

- ・現象の視点と対策の視点からのまとめかたがある、検討には重要度はかる指標が必要である(淡路)
- ・様々な視点があるので単一指標では難しい(河野)
- ・ESSP等の環境問題全体を取り扱う国際的研究枠組みがある、我が国でも作る必要がある(安成)
- ・モニタリングの科学が重要。しかし現実には、鹿児島のおゾン観測や気象ロケット観測がやめられている(佐藤(薫))
- ・グローバルにみるための人工衛星と同時に、現場観測が大事(河野)
- ・アダプティブな観測(中島)
- ・最適化と重要観測項目(複数)

(4) 今後の進め方について

- ・A4で20ページくらいの第一稿を3月までにあげる。この段階では上部委員会で取り上げるべき論点を絞り込む(A/I)。
- ・温暖化については、「温暖化に関する課題別委員会」からの報告書を取り入れる(A/I)。
- ・資料を添付できるかどうかを上部委員会に確認する(A/I)。
- ・根拠を示す資料をつけるべきである(高村)。
- ・執筆は、カバーすべき問題が多岐にわたるので、各委員が分担する方が良い。

以上